

プロフィール

フランスの大学院にて国際関係学の修士を取得。国内 IT 企業にて営業部、国際部、CSR 部勤務後、NGO に就職しフィリピンにて学校防災事業管理を行う。平和構築人材育成事業に応募し、2020 年 3 月より国連防災機関（UNDRR）大洋州準地域事務所（フィジー、スバ）にて防災担当官として勤務。約 7 か月間日本からテレワークを行った後に渡航。1 年間の派遣期間終了後、派遣先の予算で国連ボランティアとして契約を更新し、同事務所にて勤務を継続。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

国連でのキャリアを目指し、まずは経験を積みたいと思いました。国連を目指す知り合いから勧められたのがきっかけです。

大学卒業後、フランスの大学院で国際関係を学ぶ中で、国際協力の仕事に興味を抱くようになりました。しかし、その際はどのようなキャリアを積みばいいか分からず、一旦は民間企業に就職しました。民間企業で経験を積む中で国際協力の仕事を目指すようになり、国際部在籍中に希望して、CSR 部に異動しました。その後フィールド経験を積むため NGO に就職し、フィリピンのセブ州にて学校防災事業を管理しました。防災も一国のみで対応できることではなく世界レベルでの協力が必要であり、世界での災害による被害を減らすためには、国連が最も貢献できる組織ではないかと思いました。また、国連は女性が差別されることなく活躍できる場所と聞いたのも魅力的でした。

2. 国内研修に参加した感想は？

非常に貴重な経験でした。私は民間企業での経験が長かったため、一緒に国連を目指す知り合いは少なかったのですが、研修を通じて、国連でのキャリアを志向する日本人研修員のネットワークに参加できたのがとても良かったです。9 か国から来ている外国人研修員も様々な経験を持っていて面白かったです。私の専門は防災で、それを講義中に扱うことはなかったのですが、国連が行っている様々な分野の内容を学ぶことができ、勤務開始後、国連他機関とやり取りなどを行う際に役立っています。また、グループワークが多かったのですが、様々な国籍のメンバーとディスカッションをする練習となり、効果的なディスカッションについて考えるきっかけになりました。グループワークのひとつで、SRSG（国連事務総長特別代表）の役割がくじで当たり、大変でしたが良い経験になりました。講師は、P5、D1 レベルで活躍されている方ばかりで、女性も多く、ロールモデルを沢山知ることができ、今後のキャリア設計で参考になると思います。ハードシブが高い場所で働いている方もいらっしゃいましたが、ポジティブなエネルギーをいただけました。また、人事面でのケアがしっかりしているので、とてもいいプログラムだと思います。



写真1: 国内研修中のグループワークの様子



写真2: 自衛隊駐屯地での研修の様子

3. 業務内容について教えてください。

防災の仕事です。国連防災機関(UNDRR)は2015年に仙台で採択された「仙台防災枠組」の導入とモニタリングについてリードしている組織です。「防災」というと、災害対応のことを思い浮かべている方が多いと思いますが、災害が起こった後に現地に行き、食料や必需品を配布する「災害対応」は行っておらず、災害が起こったときのリスクを減らせるようにデータを分析したり、政府に提言を行ったり、アドボカシーを行ったり、ガイダンスを発行したりする、「災害に対する備え、減災」を主に担当している組織です。全体で100名強の小さい組織です。現在、組織のヘッド(事務総長特別代表)を日本人女性が務めています。神戸にも事務所があり、政府や日本を拠点とする防災関連機関と協働しています。

フィジー事務所は大洋州の国連加盟国14か国および、3つの海外領土を主にサポートしています。私を含めスタッフが4人(現在)の小さい事務所ですので、様々なことを担当させていただいています。

- ステークホルダー担当(主にジェンダー、障がい者、人権担当。各分野のNGOとやり取りし、防災のアドボカシーについて協力する)
- リスク分析(仙台防災枠組モニタリングツール、大洋州災害損失データについて、地域組織、各国の国家災害管理局の能力開発を行う。防災と気候変動適応の統合についてリサーチする)
- 広報(ウェブ記事作成、SNS担当)
- 国連組織との調整(国連大洋州カントリーチームの気候変動・防災・環境保全、ジェンダー、人権のグループにて、国連他組織と協力する)
- イベント準備(第14回大洋州女性会議、アジア大洋州持続可能な発展会議、アジア大洋州閣僚級防災会議、国連75周年イベント、大洋州レジリエンス会議など)

下記、広報担当でいくつか記事を書きましたので、参考までに掲載します。

<ジェンダー>

- <https://pacific.un.org/en/107644-womens-leadership-pacific-trailblazer-opens-world-disaster-management-women>

- <https://www.preventionweb.net/news/view/77645>
- <https://pacific.un.org/en/107640-local-wisdom-and-leadership-key-resilient-pacific>
- <https://pacific.un.org/en/107637-protection-pacific-time-pandemic>
- <https://www.undrr.org/news/inclusive-disaster-risk-reduction-more-resilient-pacific>

<ガバナンス>

- <https://pacific.un.org/en/107643-pacific-eyes-rewriting-their-laws-disasters-light-covid-19>

<アドボカシー>

- <https://pacific.un.org/en/107642-fiji-raises-disaster-awareness-save-more-lives>

<若者・学校での安全>

- <https://pacific.un.org/en/107645-engaging-youth-pacific-young-artists-paint-way-covid-19-safety>
- <https://pacific.un.org/en/107633-resilient-buildings-offer-protection-and-boost-recovery>

<リスクアセスメント>

- <https://pacific.un.org/en/107635-pacific-countries-strengthen-disaster-finance-strategies>

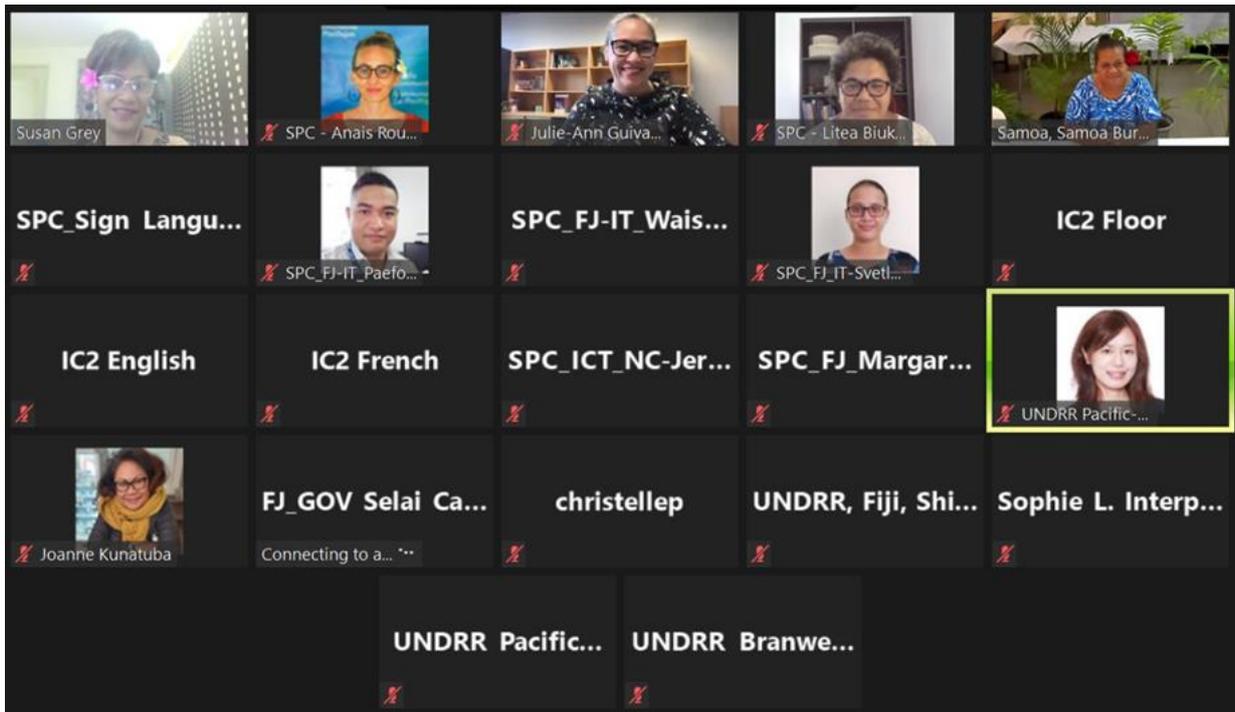


写真3：第14回大洋州女性会議でのイベント開場前のパネリストの集合写真。イベントは、ジェンダーに基づいた災害損失データについて。



写真4：国連大洋州カントリーチーム広報グループの年間計画企画会議時の集合写真。



写真5：国連オリンピック（スポーツイベント）時撮影のUNDRR 大洋州準地域事務所集合写真。

4. 海外派遣での感想は？一番印象に残っていることは？

私の契約開始は、コロナウイルスの影響で各国政府が入国制限をかけ始めたころでした。航空券も購入し契約書にサインもしていましたが、渡航しないほうがいいということになり、日本からのリモートワークが始まりました。幸いにも時差は3時間、フィジーチームでの会議やアジア大洋州地域事務所との会議も週に1回ずつあり、コミュニケーションに困るということはあまりありませんでした。

フィジーは人口約85万、四国と同じぐらいの国土の国です。平時より医療が脆弱なため、高度医療はオーストラリアで受ける必要がある国です。すぐに国を閉鎖し、厳しい渡航制限を続けたため、国連職員であっても渡航までしばらくかかりました。約7か月間、日本からのリモートワークを行いました。ジュネーブやボン（ドイツ）事務所との会議などもあり、日本からの時差はヨーロッパとの会議にはちょうど良かったです。

同期と比べ遅い渡航でしたが、2020年11月に無事渡航することができました。国境管理が厳しいため市中感染はなく、入国後2週間の施設での隔離後は、マスクなしでイベントや

会議を行うことができました。ただ、観光がGDPの約40%を占めている国なので、治安は悪化していました。

入国後約5か月間、外出や会議などに制限はなく充実した活動ができていましたが、2021年4月変異株の市中感染が1年ぶりに起こり、リモートワークに戻りました。日本と異なりロックダウンは厳しく、ロックダウンを行う場合、スーパーも含め全てが閉まります。ちょうど大きなイベントを対面で準備していたころで、計画の変更が必要になりました。

UNDRRはもともとカントリーオフィスがなく地域事務所が中心であり、100名強の小さな組織です。大洋州準地域事務所も、フィジー以外はもともとリモートでのコミュニケーションが中心であり、人との接触が必要な仕事は少なく、コロナ禍でも影響は比較的少なかったかもしれません。仙台防災枠組は、生物ハザードによって起こるものも災害に含めているので、コロナウイルスによるパンデミックも災害に入ります。各国の防災戦略に生物ハザードによるもの、感染症が含まれているかなどのモニタリングやアドボカシーで忙しくなりました。

上司は私の履歴書はあまり読んでおらず、アジア人は若く見えるためか、そして現地での経験がない中リモートワークで始まったこともあり、それほど期待されていないように感じました。ですので、自分から積極的に小さいプロジェクトに手を挙げたり、同僚の手伝いをするようにしていました。また、インプットとしてウェビナーを沢山見たり、研修を受けていました。渡航できてからのほうがアウトプットを多く作れたように思いますが、それも日本からのリモートワーク期間中から、ステークホルダーとポジティブな関係性作りに努めたり、勉強して専門分野の知識を高め、組織の仕事内容の理解に努めたからだったと思います。また、自分が得意なことや、できそうな仕事があったら自分から積極的に引き受けることも必要だと思いました。

小さい国ならではのと思いますが要人に比較的会いやすく、市中感染がなかったころ国連75周年のイベントにて、首相がブースを訪れました。また、私の上司を含め国連職員がテレビに出演しているのをよく見かけます。



写真6：国連75周年記念イベントにて、地元の小学生に防災のアドボカシーを行った際の様子

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

1年間の勤務後、UNDRRの予算で国連ボランティアとして契約を更新しました。UNDRRは小さい組織でありポストも多くないので同組織にこだわらず、国連他組織も含めて空席公募に応募をしています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

国連では日本の企業のように丁寧な研修はなく、とまどうこともあるかと思います。このプログラムは国内研修で準備ができ、その後も相談したり励ましあったりするネットワークができるのでお勧めです。国内研修は5週間の内容で、私の専門分野とは遠く、学ぶことも多かったですが、実際に赴任してからそのときの知識が役に立ったこともありました。また、特に人事面のカリキュラムが充実しており、今もシニア・アドバイザーの方から応募書類作成や面接の個別指導をいただいています。キャリアの棚卸しのセッションもあり、国連でのキャリアに関わらず職業人生において役立つ内容も得られます。日本ではキャリアの積み方が欧米とは異なるので、国連でのポスト獲得は苦勞する可能性があります。そうした際

に相談できるネットワークが築けたり、必要なことを学ぶことのできるとてもいいプログラムだと思います。

また紛争地域で働いている女性の講師が数名いらっしゃったことも良かったです。私の今までの途上国経験は、フィリピンで働いたことと、マレーシア・タイ・ブラジル等に出張で行ったことのみでしたが、アフリカやハードシップが高い国へ応募する心理的ハードルが低くなりました。特に女性にお薦めしたいと思います。残念ながら、日本は女性が男性と対等にキャリアを築ける環境があるとは言えません。国連も改善の余地はありますが、恐らく世界で最も多様性があり、子育てなどがハンディキャップにならず女性がリーダーポジションを目指せる環境があります。また、人道重視で人権に基づいたプロジェクト導入などができるのも魅力で、世界や社会に貢献できていると感じられます。

私は比較的民間企業の経験が長く、国連で働くまでに時間がかかりましたが、仕事の進め方、資料の作り方、交渉の仕方など、経験が役に立つこともあります。また、日本人の締め切りを守る姿勢は重宝されます。若いうちに国連に入ったほうが良いと言われることもあるかと思いますが、経験年数があつたほうがポストも取りやすく、遅すぎることはないので挑戦して欲しいと思います。また、比較的若いうちに途上国を目指すことがポスト獲得に役立つように思います。